



カケハシ・プロジェクト(招へいプログラム)の記録

対象: アラスカ先住民(米国)

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国アラスカ州から高校生から社会人まで10名が2019年12月1日～12月8日の日程で来日しました。日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加し、講義、視察、日本人との交流を通じて幅広く日本を理解する機会を持ちました。

【参加国・人数】

米国: 10名

【訪問地】

東京都, 北海道

2. 日程

12/1(日)	【来日】
12/2(月)	【オリエンテーション】 【講義】 外務省総合外交政策局宇宙・海洋安全保障政策室長 【表敬訪問】 中山展宏外務大臣政務官 【表敬訪問】 上川陽子衆議院議員, 伊藤忠彦衆議院議員, 中村裕之衆議院議員(以上, 「北極のフロンティアについて考える議員連盟」所属), 武部新衆議院議員, 堀井学衆議院議員 【視察】 明治神宮・原宿
12/3(火)	【意見交換】 国立極地研究所 【視察】 公益財団法人日本環境整備教育センター
12/4(水)	東京都から北海道へ移動 【学校交流】 札幌市立旭丘高等学校
12/5(木)	【表敬訪問】 北海道大学北極域研究センター 【表敬訪問】 北海道大学アイヌ・先住民センター 【学校交流】 札幌大学
12/6(金)	【文化体験】 峯光寺(座禅・書道) 【学校交流】 市立札幌開成中等教育学校 【ワークショップ(報告会準備)】
12/7(土)	北海道から東京都へ移動 【成果報告会】 【視察】 日本科学未来館
12/8(日)	【視察】 浅草寺 【離日】

3. プログラム記録写真



12/2【表敬訪問】
中山展宏外務大臣政務官



12/3【視察】国立極地研究所



12/5【表敬訪問】
北海道大学アイヌ・先住民センター



12/6【文化体験】峯光寺（座禅）



12/6【学校交流】
市立札幌開成中等教育学校



12/7【成果報告会】

4. 参加者の感想(抜粋)

◆ 明治神宮への参拝が私にとって一番有意義な経験となりました。大都会の中に森があり、だからこそ自然や自然の神様(spirits)に今も感謝の念を持つことができているということに驚きを隠せませんでした。

◆ 講義のすべてが興味深く、大変勉強になりました。アイヌ民族については知識がなかったのですが、何千マイルも離れた彼らと彼らの文化が、私たちの部族が大事にしている習慣や考え方と多くの共通点を持つことに驚きました。例えば、札幌大学のウレシパクラブの発表の中で見せていただいた食糧庫の写真は、私たちがキャッシュと呼ぶ食糧保存庫とほとんど同じに見えました。そしてまた、まさに私たちがそうしているように、アイヌの人々も伝統文化を保存、再興しようと熱心に努力しているのです。学校交流は生涯の思い出となりました。若い人たちと親しく交流ができることは無上の喜びです。今回の交流を通じて、私たちとアイヌの人たちは、本質的には変わらないということが分かりました。引き続き機会を見つけて日本との交流プログラムに参加してみたいと考えます。

◆ 議員の方々への表敬訪問の機会に恵まれ、たいへん感謝しています。私たちの訪日を大切にいただいていると感じました。日本政府の重点施策を直接聞くことができたのもとても有益だと思いました。学校交流はすばらしいものでした。日本の文化をより親しみやすく学ぶことができましたし、私たちの文化を紹介する機会にもなりました。北海道の大学での研究センター訪問や、プログラムを十分に楽しみました。景色も気候もライフスタイルも、私たちの土地ととても似ていますし、訪問先の皆さんとのつながりは何よりも意義深いものです。北極圏で行われている調査研究について知ったのは、非常に勉強になりました。

5. 受入れ側の感想(抜粋)

◆ 学校交流参加学生

今回のアラスカの方々との交流は、アラスカについて知れただけでなく、自分たちのプロジェクトの視野を広げることにもつながりました。私たちのプロジェクトのテーマは「暖房の使用量を抑える暖かい家を作る」というもので、事前の調査で寒冷地であるアラスカの家も調査していました。そのため今回の交流でアラスカの家の特徴や暖かさを保つために行っている工夫などを質問しました。その中で最も興味深いと感じたものは家によっては四重構造のガラスを使っているということでした。やはりインターネットよりも実際の情報を得るというのは、重要だと感じました。そして日本と同じように基礎や壁に断熱の工夫がされているものの暖房に頼っている側面があるということもわかりました。今回の交流で得た学びをこれからの活動にもつなげていきたいと思います。

◆ 学校交流参加学生

今回カケハシ・プロジェクトでアラスカ先住民であるアサバスカ族の方々とは交流できて、とても勉強になりました。交流は、本当に楽しかったです。交流の内容は、アサバスカ族の方々による文化の紹介や踊りの披露、トナカイの皮で作られた楽器をいただいたり、絵本をいただいたり、アサバスカ族に伝わるカラスの踊りを一緒に踊れたこと、話せたことなど、とても充実し

た2時間でした。今回の交流のような機会はなかなかないと思います。参加できてとても良かったです。ありがとうございました。

◆ 学校交流参加学生

アラスカの先住民の方々の文化を聞いたことがありませんでしたが、伝統的なドラムや美しい山等様々なことを知ることができ、自分の視野が広がりました。ありがとうございました。互いの文化や日常を学べて良かったです。アラスカの先住民の方々に日本のお菓子を紹介し、気に入ってもらえたことや一緒に楽しくお話できて嬉しかったです。このような交流に積極的に参加し、互いの国や文化に興味を持てたらよいと思います。

6. 参加者の対外発信

	
太鼓の旅を見届けたのは美しい思い出 (Facebook) ジェイコブは、カルチャーキャンプで作ったドラムを昨夜、ウレシパクラブにプレゼントして、アトナ族の「思いやりと愛」という文化を体現してくれました。新しい場所で太鼓が役に立ちますように。	明治神宮について (Instagram) 明治神宮で全員集合。日本の文化と自然への敬意を払うためにお参りに行きました。素晴らしい経験と機会になりました。改めてありがとう。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



日本とチカルーン村との架け橋

目的: 日本での経験, 日本とアイヌの文化, そしてプログラムで学んだ環境に関するイニシアティブについて紹介するため

実施時期: 経験の共有は生涯続けるが, 今から 3 月中旬までにアクション・プランを掘り下げる。

実施者: アラスカからの訪日団全員

対象: チカルーン村のすべての氏族

手段: 写真や動画をまとめ, チカルーンのアーカイブに載せる。フォトモンタージュとビデオも作成して, チカルーンのホームページと学校のフェイスブックに載せる。これをツールとして, 他の部族にも紹介する。

実施方法: 許可された媒体を使い, フォトモンタージュとビデオを作製する。